

2021年11月7日のGlobal Sessionのお知らせ(345回目)

期日:2021年11月7日(日) 13:30-15:00

場所:ガレリア3階 会議室

ゲスト:内田晴子さん:(公財)世界人権問題研究センター第5部登録研究員
([移住者と人権担当](#))

テーマ:差別するかもしれない私に気づく

コーディネーター:募集中

<内田晴子さんのプロフィール>

兵庫県生まれ。京都大学大学院法学研究科、在フィリピン日本国大使館専門調査員、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(東南アジア地域研究専攻)博士課程、大学非常勤講師を経て、現職。

「外国人」としてフィリピンでの生活や仕事を体験した後、日本では外国人「非」集住都市の公立学校の日本語教室との協働やネットワーク作りに関わることになった。現在の関心事は、移住者の学ぶ権利についての基盤整備、教育分野の外国籍支援者の待遇問題など。職場では研究部「人権教育」担当を経て「移住者と人権」チームを担当。同チームは移住労働者とその家族の受け入れに関して、国際人権保護基準に基づいた法基盤整備のあり方について取り組む。東南アジア地域研究、移民研究、人権教育。

概要:

「多文化」をお題に高校での人権教育授業や自治体の研修講座を担当する際によく使うサブテーマを、今回のテーマとしました。学生の頃からフィリピンと御縁があり、その後、フィリピンで働いたり、研究したりと長期滞在し、その後、日本ではフィリピン系の子どものサポートで小学校に通いました。社会的公正や社会運動、人権というテーマがずっと身近にありましたが、やはり分かっていなかったことも多く、職場(世界人権問題研究センター)で「人権教育」研究班の担当になって、(その後「移住者と人権」担当に)改めて勉強し直したことで、様々なことを言語化できるようになったと感じています。

高校生向けにはマジョリティ、マイノリティ、特権(privilege)、バイアス、ステレオタイプといった言葉を説明し、それが差別とどうつながるのか、という話をし、大人向けには様々な事例やデータを示すのですが、今回は、フィリピンとの御縁や個人的な経験を振り返りながら、自分が「気づく」プロセスについて共有できればと思います。

【共著で関わったおすすめ冊子】

- ①『[考えたくなる人権教育キーコンセプト](#)』
(世界人権問題研究センター、2018年、300円)

**②「多文化社会を生きる II 外国につながる子どものことばとこころ
生きぬく力をはぐくむ学校・家庭・地域の役割」
(京都市地域・多文化交流ネットワークサロン、2016年)**

内田晴子さんとは、京都市の国際交流会館を中心に多文化共生の活動をしている団体の集まりである「多文化交流ネットワーク」の研修会で知り合いになりました。もう、5、6年前です。そして、昨年、亀岡市であった人権教育指導者研修会の内田さんの講座に私も参加しました。内田さんは、『移住者と人権～移住者と日本語教育』という課題で話をされ、そのあとで、お話しをして Global Session へのゲストをお願いしました。その後、内田さんは、2021年3月27日に開催された崎ミチさんをゲストに開催した Global Session にもお子様といっしょに参加していただきました。

今回は、ご自身の歴史をもとに、お話しをしていただく予定です。

内田晴子さんも、先に述べた京都市地域多文化交流ネットワークサロンの研究会で、『多文化社会を生きる II 外国につながる子どものことばとこころ～生き抜く力をはぐくむ学校・家庭・地域の役割～』という本が出版されています。その中で、内田さんは参加者からの質問に答えてという座談会の司会をされています。これは、2016年7月1日の発行ですが、現在はかなり変化してきています。

是非、内田晴子さんに会いに来てください。ただし、10名までなので、当日までに見嶋まで申し込みをしてください。よろしくお願ひします。

OfficeCom Junto(オフィス・コン・ジュント)

見嶋きよみ：Kiyomi-Kojima@gaia.eonet.ne.jp Tel:0771-23-6579

今後の Global Session

11月28日(日):濱田雅子さん(21回目) 346 回目

オンラインとガレリア会場と双方向で

服飾から見た生活文化シリーズ 21 回目(10:30~12:30)

「写真に見るアメリカの民衆の装い(その1)

- 1840年代の生活文化を垣間見る -

12月19日(土):オジュグさん(ポーランド出身・大学教員) 10:00~12:30

「音楽からさぐるポーランドのクリスマス」 347 回目

ひまわり教室のクリスマス会もかねて